



# CAJLE Newsletter

Number. 57  
December 2018

カナダ日本語教育振興会

Canadian Association for Japanese Language Education

## 目次

会長の言葉.....	1
<a href="#">CAJLE2018 年次大会を振り返って</a> ...	2
<a href="#">年次大会に参加して</a> .....	3
特集記事「 <a href="#">カナダ弁論大会優勝者の声</a> 」.....	6
<a href="#">CAJLE2019 年次大会のご案内</a> ...	8
ANNUAL CONFERENCE	
<a href="#">活動報告</a> .....	10
◆日本語教師情報交換会	
◆地域研修会	
<a href="#">学校紹介</a> .....	12
◆バーナビー日本語学校	
◆カモソソカレッジ	
<a href="#">国際交流基金コーナー</a> .....	14
◆着任のご挨拶	
◆教材紹介	
<a href="#">日本語教育グローバルネットワーク</a>	
<a href="#">プロジェクト中間報告</a> .....	15
<a href="#">CAJLE よりお知らせ</a> .....	17
<a href="#">2018 年上半期活動報告</a> .....	18
<a href="#">編集後記</a> .....	19
<a href="#">会員規定</a> .....	20

Editors: Sawako Akai (Chief), Tomoko Bailey Ujie, Izumi Krasznai

Copyright©CAJLE 2018

## 会長の言葉

CAJLE 会長 青木恵子

カナダは長い冬に入りました。緑がまぶしいオンタリオ州ロンドンにて皆様にお会いしたのがつい先日のように感じられます。年次大会では知的な刺激を大いに受け、視野を広げ、実践的なアイデアを得て、新年度を乗り切るエネルギーをいただきました。その新年度も早くも半ばまで来ました。

ご存知の通り今年度は 2 年に一度の理事改選があり、河井氏、小室リー氏、下條氏、シャープ氏、松本氏の 5 名が退任されました。これまでの尽力、本当にどうもありがとうございました。そして、年次総会で承認を受けた相津氏（ON 州オタワ）、安部氏（アメリカ VT 州ミドルベリー）、木村氏（BC 州ビクトリア）、ベイリー氏（BC 州バンクーバー）の 4 名が理事として新たに加わりました。安部氏は 2 年のブランクを経てのカムバックです。小室リー氏が 2 期務めてくださった会長は私が引き継ぐことになりました。至らない点も多いかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。カナダの日本語教育の現場・研究活動をより一層活性化すべく、各地域の理事と連携してまいります。また、少しずつ、新しいことも取り入れていきたいと思っております。

新理事体制のもと、来年に向けての大会実行委員も発足しました。2019 年の年次大会はカナダの西、BC 州ビクトリアにて開催されます。実はビクトリアでは 2 度目、14 年ぶりの開催となります。Garden City というニックネームを持つこの街は気候が温暖で、「退職後に住みたい街」不動の人気ナンバーワンです。大会内容は続々と決まりつつあります。詳細は本号の記事をお読みください。

時は前後しますが、8 月初旬にイタリアのベネツィアで日本語教育国際研究大会（ICJLE）がありました。CAJLE は、日本語教育グローバルネットワークの一員として小室リー会長を始め 3 名の理事が参加、代表者会議に出席し、グローバルネットワーク（GN）プロジェクトの中間報告も行いました。CAJLE が主導する多様な日本語をテーマとした GN プロジェクトは、もうすぐウェブサイトにてリソースが公開される予定です。なお、次の ICJLE は 2020 年 11 月に香港日本語教育研究会主催によりマカオにて開催されることが発表されました。

最後に、悲しいお知らせがございます。3 年前にバンクーバーでの年次大会にお越しいただいた青木直子先生の訃報がこの夏飛び込んできました。先生には基調講演、教師研修、公開討論会と丸二日間ご登壇いただき、当時のお写真は CAJLE ウェブサイトの顔として使わせていただいております。学習者オートノミーの観点から、学習者の側に立った言語教育の在り方、教師の役割、社会の仕組みに至るまで、我々教師が取り組むべき課題を多角的に考えさせられた大会でした。今、改めて先生の教えを胸に刻みつつ、実践してまいりたいと思っております。

## CAJLE 2018 年次大会を振り返って

大会実行委員長 赤井佐和子

CAJLE2018 年次大会は、8月21・22日にオンタリオ州ロンドンのヒューロン大学において「多様性と評価—多様化する社会での評価の意義—」をテーマに開催されました。今大会は創立30周年を記念する大会でもあり、カナダを始め、6カ国から99名の日本語教育関係者が大会に集い、教師研修、研究・実践報告や意見交換を行いました。大会の前日には日本語教師情報交換会を開催し、地元在住の英語教師・母親による、日本で幼少期を過ごしたお子さんたちの日本語保持に至るまでの経験、及び日加での子育てについての講演がありました。大会に集まった機会を利用して、国内・国外からの大会参加者とオンタリオ州内の教員が日々のクラスに直結する情報を交換する貴重な場が提供できたと思います。

近年、言語教育の現場では、社会や教育、教授法、学生の背景などさまざまな面で多様性の存在が認識、あるいは意識されるようになり、評価の多様化も進んでいます。2017年8月に実施したCAJLE2017年次大会では、日本語教育において広がる多様性について講師や参加者の方々と共に議論を深めましたが、その多様性をどのように評価とつなげるのかについてはまだ議論の余地があることを再認識しました。学習の場と社会が繋がっているにもかかわらず、教室での評価と社会での評価が必ずしも一致せず、解決策を模索している教師あるいは学習者が少なくないのではないかと考えます。そこで、本大会では、言語学習の場で多様性を受け入れるとすれば評価の意義はどのようなところに求められるのか、評価について再考し、さらに多様化する社会での評価の意義について議論する機会を提供しました。真嶋潤子先生（大阪大学）に

「学習者の多様性と日本語教育における「評価」-何のために何をもって「評価」するのか-」と題し、基調講演および教師研修をしていただきました。また、国際交流基金・アルバータ州教育省から村上吉文先生、The Canadian Association of Second Language Teachers(CASLT)から Maureen Smith 先生にも教師研修をしていただきました。



基調講演の様子

昨年に引き続き、大学院生から優秀なアブストラクトを2本選び、最優秀・優秀アブストラクト賞を授与しました。これは大学院生の年次大会参加促進を目的に、高円宮日本教育・研究センターからの助成を基に行われています。この試みによりこれまでにない多くの大学院生の応募があり、本年度は11名の大学院生の参加がありました。日本語教育の将来を担う若者がカナダにおける日本語教育の中心であるCAJLEの年次大会に参加し、参加者と交流を深めることは大変意義があると考えます。また、大会1日目終了後に催された懇親会には、97名もの方々が参加され、新たな交流の機会を持つことができました。

本大会では、大会2日間で36本の口頭発表とラウンドテーブル3本、ポスター発表が20本ありました。大会の講演資料は[会員限定エリア](#)に掲載され、本大会のプロシーディング (<http://www.cajle.info/conference-proceedings>) は、CAJLE ホームページで公開されていますのでご覧ください。

最後に、本大会開催にあたり国際交流基金をはじめ多くの団体、企業の皆様にご支援・ご協力をいただきました。皆様のご協力に、心より感謝を申し上げます。

## CAJLE 2018 年次大会に参加して

**BENJAMIN LARSON (PHD STUDENT, TOKYO UNIVERSITY OF FOREIGN STUDIES)**

Language represents one of Man's first tools; it is a tool of profound significance, for through it human beings communicate love, ideas, and knowledge; it shapes our conceptualizations of self, of culture, and of nationality. Words are sinewy threads that bind us to each other, connecting us not only to each other but connecting our lives to something greater. Through language, we expand our own experiences beyond the physical limitations of our bodies.

As a U.S. citizen who researches Japanese education in Tokyo, I experience daily both the frustrations and the joys of trying to connect with a culture not my own. These frustrations include misunderstandings, caused either by misinterpretation on my part or an inability to accurately explain my own thoughts. Such frustrations also include the burden placed on me to work my way through a jungle of unfamiliar vocabulary and bunkei which can make even presumably simple tasks into Herculean feats. A concept which is clear in my mind in English remains trapped within there, expressible in Japanese. An internet search can take hours; wording a request politely can seem a veritable minefield of possible cultural faux pas. Surviving and researching in Japanese can seem almost Sisyphean in nature.

At the same time, living and researching in Japan has given me the opportunity to vastly expand my own knowledge of other people and other cultures. It has afforded me the opportunity to question my own assumptions about myself. And it has given breadth to my life experiences.

My own research on tandem learning, a form of language learning in which two people who speak different languages pair up to help each other learn, is based on the notion of language learning through the pursuit of connections with other people. In forming a social connection with a speaker of the language they are studying, a tandem participant is exposing themselves to the opportunity to learn not just their partner's language, but also how they use that language, and the cultural attitudes that shape their outlook on life.

Attending 2018 CAJLE conference was thus a particular joy for me, as it involved the opportunity to make so many connections with people so far from my own home (both my home in Japan, and my home in America). Although not the first academic conference for me to participate in, it was my first time participating in a conference outside of Japan, and it was the first time that I gave a presentation in English. Interacting with Japanese teachers from Canada (and elsewhere) was a fascinating opportunity to see the issues surrounding Japanese education are addressed abroad (i.e., outside of Japan). It was also very valuable to receive questions about my own research, and to see my research viewed from other perspectives. In short, CAJLE served as a tool for me to expand my connections across the Pacific, and to deepen my connections to the Japanese-teaching community.

**CAJLE TWITTER はじめました！ @CAJLE\_ACELJ**

年次大会と GN プロジェクトの情報について発信していきます。



## 2018 年 CAJLE 年次大会に参加して

モンクトン日本語センター 吉澤明子

私は現在、日々の子育てに奮闘しながら継承語として日本語を教えることに試行錯誤しています。今回、それらの取り組みに還元できるような学びを一つでも多く持って帰りたいという気持ちで、初めて CAJLE 年次大会に参加させていただきました。

大会を通して、是非取り組んでみたい活動や、試してみたい評価方法など、大変多くの学びがありました。また、継承語として日本語を学ぶ目の前の子どもたちが、5年後、10年後にどのような評価の対象になる可能性があるのかを知る良い機会となりました。国際結婚の増加や、インターネットの普及等を考えると、今後、学習者が更に多様化していくことは容易に想像できます。その多様化をプラスに捉え、学習者が自らをきちんと評価されていると感じられる環境、そして、向上していける環境を作っていくことは益々重要な課題となっていくと改めて感じました。

今回、私が年次大会に参加したもう一つの大きな目的は、ポスター発表でした。発表では、私の所属する継承語教室での取り組みについてお話したのですが、発表を通して、様々な場所で日本語教育に関わる先生方から、貴重なフィードバックや温かい励ましの言葉をいただくことができました。また、カナダ各地で同じように継承語教育に携わる先生方と具体的な活動のアイデアを交換したり、悩みを共有したりできたことも大きな収穫でした。

この年次大会は、様々な立場でよりよい学びの場を作っていこうとする先生方の熱意に溢れる素晴らしい大会でした。平たい言い方になってしまいますが、その輪の中に入れていただくことができ、大変幸せでした。是非、また参加させていただきたいと思います。大会関係者の先生方、ボランティアの学生の皆様、素晴らしい大会を本当にありがとうございました。



大会集合写真



## 年次大会最優秀アブストラクト賞受賞者の声

本年度の年次大会から大学院生のアブストラクトを対象に、アブストラクト賞(最優秀賞、優秀賞)を設けました。最優秀賞受賞者の声をご紹介します。—編集部

### 受賞と発表の機会をいただいて

平野莉江子(立命館大学 修士課程)

CAJLE 年次大会には、さまざまな地域から集まってこられる日本語教育実践者、研究者の方々と研究成果を共有したい、日本語教育についてのお話をお聞きしたい、という想いから初めて参加いたしました。大学院に入る前の社会人時代から活動を続け、想いを温めてきた地域日本語教室についての研究成果に対して受賞の知らせをいただいた時は、驚きと同時に喜びがとても大きかったです。

「多様性と評価」をテーマとしたみなさまの発表を通じて、多様化する学習者のニーズや学習形態、教える側の多様性や、誰がどのように学習成果を評価するのかといった点について改めて考える機会を得ることができました。自身の発表では様々な視点から貴重なフィードバックをいただき、今後の研究の励みになりました。また、発表以外の時間でもお会いした方々と日本語教育事情や研究についてお話することができ、多くを学ばせていただきました。

今回の経験を修士論文に活かし、またみなさまと共有できればという想いで残りの修士課程での研究活動に励んでまいりたいと思います。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

### CAJLE ロンドン大会 PROCEEDINGS のウェブ掲載について

大会 Proceedings をウェブに掲載いたしました。今回の論文数は 43 本です。Proceedings は以下からご覧いただけます。

Home (<http://www.cajle.info/>) → Publications をクリック → Conference Proceedings をクリック

また、講演資料は[会員限定エリア](#)にてご覧になることができます。

## 特集記事 カナダ弁論大会優勝者の声

カナダでは毎年3月に日本語弁論大会が開催されています。大会に参加することは、日本語学習者にとってどんな意味を持っているのでしょうか。過去の大会優勝者、2名にお話を聞きました。—編集部

### MINGXUE NAN, UNIVERSITY OF ALBERTA

My name is Mingxue Nan. I participated in the advanced category in the National Japanese Speech Contest of 2018 and won the grand prize of the year, representing the University of Alberta. I am currently a graduate student in modern Chinese and Japanese literature in the Department of East Asian Studies at the University of Alberta.

I sincerely appreciate my experience in the National Japanese Speech Contest. It is a fantastic opportunity to meet friends from across Canada and know that you are not alone in your journey of Japanese language learning. It was so exciting for me to get to know so many peers who share the passion and love for Japanese language and culture.

Overall it was a fascinating experience to participate in the National Japanese Speech Contest. I was a person shy in public and not confident in my Japanese, but this experience of braving public speaking in a second language really boosted my confidence. It encouraged me to use Japanese as a research language and pursue the field of modern Japanese literature as part of my academic career.

I would like to thank the National Japanese Speech Contest for its positive impact on my life, and I cordially invite Japanese language learners in Canada to take up the chance to participate in this event in the future.

私は南 明雪（なん めいせつ）です。アルバータ大学で2018年のスピーチコンテストに参加し、上級部門で優勝しました。私、今はアルバータ大学の東アジア研究大学院で大学院生の一員として、現代中国・日本文学の研究をしています。

今回のスピーチコンテストの経験は自分自身にはとても大切だと思います。カナダ各地からの沢山の友達と出会え、いい思い出を作りました。自分と一緒に日本語と日本文学に熱を入れる友達に出会い、この道を歩いているのは自分だけではないということを知り、心の底から嬉しかったです。

実は、私は人前で話すのは苦手で、すぐ恥ずかしくなります。そして、自分の日本語にあまり自信がなく、スピーチコンテストのために必死で練習しました。先生とTAさんはずっと私を支えてくれて本当にありがたかったです。みなさんのおかげで、私は優勝できました。今の私は自分の日本語能力に少し自信が持て、日本文学に更に興味が深くなりました。日本文学を将来の学術キャリアの一部とし、一生追い求めることを決めました。

最後になりましたが、今回のスピーチコンテストに参加したことは良かったと思います。流した汗とその喜びも素敵な経験だと思います。ですから、日本語を学ぶ学生たちにスピーチコンテストを心から勧めます。そして、スピーチコンテストの更なる発展をお祈りします。



## BROGAN GORDON, UNIVERSITY OF ALBERTA

In March of 2016, I had the honour of participating in the Canadian National Japanese Speech Contest. I was a 3rd year university student minoring in Japanese, which was of course my favourite class. However, at the time I was so shy. I rarely participated in class discussions, and I only spoke if absolutely necessary. This was a huge problem. How can you learn a language if you don't practice speaking it?

My teacher suggested that I participate in the Alberta District Japanese Speech Contest. It would be a good experience for me to practice my Japanese. I was so nervous. I didn't want to make mistakes and potentially embarrass myself. However, I channeled this fear to write my speech which I titled "The Eyes of the heart".

I spoke about the unapologetic curiosity of children, and the importance of asking questions. I spoke about how making mistakes facilitates growth and improvement. As we get older, it seems that we try to avoid situations which may cause us embarrassment or discomfort. However, there is nothing embarrassing about trying to learn a new skill. I presented my speech with confidence, despite making numerous mistakes. Not only did I overcome my fears that day, but I actually won the competition.

I went on to win the National Japanese Speech Contest as well. But more importantly, I grew as a person. I am exponentially more confident in myself, which I believe has been beneficial in all aspects of my life. This past June, I graduated from the University of Alberta with both a BSc and a Certificate in Japanese Translation. Currently, I plan to pursue a graduate degree in linguistics. And later this year I hope to write the JLPT N2 exam! But regardless of what my future may hold, I know that I want to continue challenging myself. Learning a new language has opened so many doors for me. But I would never have been able to do so, had I not made a mistake or two along the way!



2016年3月、カナダ日本語弁論大会に参加できて光栄でした。私は大学3年生で、日本文学を学んでいて、日本語が一番好きなクラスでした。しかし、私は恥ずかしがり屋で、必要な時以外は話し合いに参加できませんでした。これは重大な問題でした。新しい言語を勉強する時、話さなければ、どのように学ぶことができるでしょうか。

そこで、先生は私にアルバータ州日本語弁論大会に参加するように促し、「日本語を練習する貴重な経験になるでしょう」と言いました。本当に緊張しました。失敗して、恥ずかしい思いをしたくなかったのです。しかし、この不安な思いが、私の「心の目」と題するスピーチにつながったのです。

子供の無防備な好奇心、そして質問することの重要性について語りました。そして失敗は成長とその後の発展に繋がると話しました。年を取るにつれ、私たちは恥や不快感を引き起こす可能性のある状況を避けようとしているようです。しかし、新しいスキルを学ぼうとするのは恥ずかしいことではありません。私はたくさん間違えたにもかかわらず、自信を持ってスピーチを行ないました。その日の恐怖を克服しただけでなく、実際にコンテストで一位を取りました。

更にカナダ全国日本語弁論大会でも勝ちました。勝利よりも重要なことは、この経験が自分を成長させてくれたことです。今、自分の能力に前よりも自信があるし、人生のあらゆる面で役に立つと信じています。今年6月、アルバータ大学を卒業し、BScと日本語翻訳の証明書を取得しました。今後、私は言語学の学位を取得する予定です。今年の後半には、JLPT N2試験を受けたいと思っています！しかし、未来に何があるかに関わらず、私は自分自身に挑戦し続けたいと思っています。新しい言語を学ぶことは、私に多くの扉を開いてくれました。しかし、途中で失敗をしていなかったなら、決してできなかったでしょう。

## CAJLE2019 年次大会のご案内

大会実行委員長 木村美香

2019 年夏、ビクトリアに CAJLE の年次大会が 帰ってきます！

テーマ：「表現リテラシー：コミュニケーションから考える多文化社会の日本語教育」

日程： 2019 年 8 月 6 日（火）・7 日（水）

開催地： ブリティッシュ・コロンビア州 ビクトリア市、ビクトリア大学 (<https://www.uvic.ca/>)

基調講演・教師研修 II：平田オリザ先生（劇作家・演出家、大阪大学 CO\*デザインセンター特任教授、東京藝術大学 COI 研究推進機構特任教授、兵庫県立専門職大学（2021 年開学予定）学長就任予定）

教師研修 I：CASLT（カナダ第二言語教師会）講師（TBA）

教師研修 III：村上吉文先生（国際交流基金派遣日本語上級専門家、アルバータ州教育省日本語教育アドバイザー）

近年私たちはグローバル時代、国際化時代、多文化社会と呼ばれる多様性のある社会の中で生きています。皆様も日々の生活の中で様々な背景や価値観を持った人々が身近にいるのを感じていらっしゃるのではないのでしょうか。これまでの CAJLE の年次大会でもこの多様性に注目して様々な角度から日本語教育のあり方について意見交換をしてみられました。CAJLE2019 年度の年次大会では、この多様性のある社会をコミュニケーションという視点から考えます。多様性のある時代に生きる私達にとって、真の意味でのコミュニケーション能力を伸ばすことはますます重要になっています。しかし、私たちは多様性のある社会の中で必要なコミュニケーション能力とは一体どのような能力なのか本当に理解できているのでしょうか。また、日本語教師として学習者のコミュニケーション能力を伸ばすような教育が出来ているのでしょうか。この大会では私たち日本語教育に携わるものがこの多文化社会に生きる学習者のために何ができるのか、また何をどのように教えたらいいのかということについて一緒に考える機会を提供したいと考えています。

この二日間の年次大会では、まずコミュニケーション能力について再考するため、日本より平田オリザ先生をお迎えし、基調講演を行っていただきます。平田先生は現代演劇界で最も注目されている劇作家、演出家でいらっしゃいますが、コミュニケーション教育の分野でも幅広い活躍をいらっしゃいます。人々が持つ異なる背景や価値観の違いに注目した先生のコミュニケーション理論は多様性に満ちた社会に生きる私達に多くのことを教えてくれるのではないのでしょうか。また、教師研修には参加者の皆様実際に演劇的手法を体験していただけるワークショップをご準備いただいております。さらに、国際交流基金／アルバータ教育省の村上吉文先生、および CASLT の講師の先生にも 実践的な教師研修を行っていただく予定です。

本大会では 基調講演、教師研修、そして参加者の方々の発表等を通じて、皆様と一緒に『表現リテラシー』を磨きたいと思っております。多様化する社会の中で 他者に迎合するのではなく、どのように他者と対話し、コミュニケーションするかについて考え、今後の日本語教育、またその実践に役立つような情報を提供できる場にしたいと思っております。

CAJLE2019 ビクトリア大会にどうぞご参加ください！

今年は Twitter を活用し、随時大会関係の情報、ウェブの更新情報など、皆様に役に立つ情報を発信していく予定です。そちらも是非ご利用ください。

ウェブサイト：<https://www.cajle.info/programs/cajle2019/>

Twitter: @CAJLE\_ACELJ



写真提供 TOURISM VICTORIA



## CAJLE2019 ANNUAL CONFERENCE

MIKA KIMURA, ORGANIZING COMMITTEE FOR THE CAJLE 2019

CAJLE Annual Conference will be back to Victoria in summer, 2019!

**Theme:** “Hyōgen” Literacy: Exploring Japanese Language Education in a Diversifying Society from the Perspective of Communication.

**Date:** August 6 (Tuesday) and 7 (Wednesday), 2019

**Venue:** University of Victoria (<http://www.uvic.ca>), Victoria, BC

**Keynote Address & Teacher Workshop II:** Mr. Oriza Hirata (Playwright, Director, Visiting Professor, Centre for the Study of CO\* Design, Oaska University, Research Professor, COI Research Promotion Office, Tokyo University of the Arts, President, Hyogo Prefectural Professional and Vocational University (Expected Commencement in 2021)

**Teacher Workshop I: Lecturer from CASLT** (Canadian Association of Second Language Teacher) TBA

**Teacher Workshop III: Mr. Yoshifumi Murakami**, Japanese-Language Education Advisor (Alberta Education, Sponsored by the Japan Foundation)

In recent years, we have come to be living in a diversifying society that may otherwise be called a globalized world, an internationalized era or a multicultural society. We encounter people with different backgrounds and different values in every part of our daily life. In the past, CAJLE annual conferences have highlighted various social aspects related to “diversity” and have had many valuable discussions from various angles regarding different opinions and considerations towards Japanese language education. For the CAJLE2019 Annual Conference, we approach this issue of “diversity” and “diverse society” from the perspective of communication. It has become critical for us to gain and train ourselves to obtain communicative competences in a diversifying society more than ever. However, do we really know what is involved in gaining communicative ability within a diversifying society? Furthermore, as Japanese language instructors, have we been able to provide classes that allow learners to improve their communicative competencies? In this conference, we will provide opportunities to explore issues including what we, as Japanese language instructors, can do for learners who are facing a diversifying society and what we should teach and how we should teach to improve their communicative competencies.

We will begin our two-day conference with a keynote address by Mr. Oriza Hirata, to conceptualize issues of communicative ability. Mr. Hirata is a well-recognized playwright and director in the field of contemporary theater; however, he has also widely engaged in the field of communication studies. His communicative theory that focuses on differences in people’s backgrounds and values, points out various important aspects for people like us who are living in a diversifying society. In addition to Mr. Hirata’s talk, we have prepared a Teacher Workshop session in which participants will directly experience Mr. Hirata’s theatrical method. Further, we are also preparing two other useful Teacher Workshops led by Mr. Yoshifumi Murakami, Japanese Language Education Advisor, from Alberta Education (sponsored by the Japan Foundation), and the instructor from CASLT (Canadian Association of Second Language Teachers).

Through the keynote speech, teacher’s workshops, participants’ presentations and poster sessions, we will polish our “hyōgen” literacy (communicative competencies) in this annual conference. Not simply compromising oneself with others in a diversifying society, we will explore the way we can have a “dialogue” and communicate with others. This conference is a vital opportunity to provide information and techniques that will be useful for the future of our Japanese language education programs.

Please join us in CAJLE 2019 Annual Conference in Victoria!

This year, we are planning to use “Twitter” to provide information on the annual conference, update information on our website, and other useful information. Please follow us on Twitter as well.

Website: <https://www.cajle.info/programs/cajle2019/>

Twitter: @CAJLE\_ACELJ



PHOTO BY  
TOURISM VICTORIA

2009年よりトロント地域の教師を対象として行われ好評を博している「継続シリーズ」が引き続き開催されました。熱心な活動の様子を今号でも継続でご案内します。— 編集部

## 活動報告

### 日本語教師情報交換会 第27回 日本語学習を継続させる

小室リー郁子(トロント大学)・松本朋子(トロント日本語学校・JCCC)



今回で27回目となる通称「継続」シリーズでは、「複文化・複言語主義に基づいた継承語としての日本語教育の可能性」と題し、オンタリオ州各地で継承語としての日本語教育に取り組まれている、青木恵子先生(キングストン/キングストン日本語教室)、内田道世先生・国実久美子先生(ウオータールー/さくら日本語学校)、マケボイ真紀子先生・内原卓海先生(ロンドン/森のまち日本語学校)にお越しいただき、実際に行われている授業内容をご紹介いただきました。また今回は初の試みとしてZoomを

使い、遠方にお住まいの方にもインターネットを通してこの会にご参加いただきました。

開始にあたり、Japan Foundation, Torontoの田中香織氏(現: University of British Columbia 所属)より、今回のタイトルにもある「複文化・複言語主義」について説明があり、その後各機関の先生方より学校にて使用されている自作教材、また学校独自の活動について、実際に学習者の方達が作成された成果物や写真データなどをもとにお話しいただきました。



継続シリーズの中でも、継承語教育について大きく取り上げたのは2013年以来だったということもあり、各先生方の熱意に満ちたお話を聞いた参加者の方々からも様々な質問が飛び交う活発な会となりました。



(写真はすべて国際交流基金トロント日本文化センターからの提供によります。)

## 日本語教師情報交換会 IN VANCOUVER

### 第三回 レッスンプランを考える—各課の導入から目標到達まで

阿部ますみ(ブリテッシュコロンビア大学)

年二回の勉強会の実施を目指して、継続 BC の第三回目の情報交換会が 10 月 28 日にバンクーバー日本語学校に於いて開かれました。日曜日の午後の開催にも関わらず、日本語学校、高校、大学より約 30 名の方々にお願いすることができました。勉強会開始までの 30 分間を懇親会にあて、軽食を取りながらの和やかな歓談で会がスタート。今回は「新しい課の初日をどのように始めるか」をテーマに各先生方のそれぞれのアプローチを紹介していただきました。「げんき 1」の第五課を共通の教材とし、事前のアンケートの結果から、大きく三つのグループ、「単語派」3 グループ、「会話派」2 グループ、そして、例えば課で紹介される沖縄の写真を見せて歴史を説明するというような、学生の興味を引き出しながら、日本独特のテーマを取り上げる「その他」のグループに分かれて、まず、グループディスカッションをしてから、要点をポスターにまとめ、発表していただきました。短時間でしたが、共同作業をすることで、リラックスした雰囲気の中で情報交換ができたと思います。同じ「単語派」でも、学習者の違いによってフラッシュカードを使った単語導入、単語の音読、単語クイズなどのアプローチがあり、その効果についてのお話を伺うことができました。「会話派」は、内容が分からなくても、まず会話を聞かせ、それを理解できるようになることをその課のゴールとして、学習の最後にまた会話を聞かせ、ゴール達成の確認をする。また、この方法は何が新しいかを学生に気付かせる効果があることが報告されました。その日のうちに、参加者の方から、「明日は授業参観なので、今日学んだことを実践してみようと思う」というメールをいただき、現場ですぐに実践できる、情報の交換や提供がこの会の一つの目的であることを再認識しました。次回、第四回目は三月を予定しています。



## 地域研修会報告:オンタリオ州ウォータールー日本語教師研修会

国実久美子 (RENISON UNIVERSITY COLLEGE, UNIVERSITY OF WATERLOO)

CAJLE の地域研修会支援金を受け、2018 年 5 月 27 日にウォータールー大学レニソンユニバーシティーカレッジにおいて、「子どもの言葉のちからを考える～ドイツの<複文化・複言語キッズ Can Do>の活動を参考にして～」と題した日本語教師と保護者のための研修会を行いました。

まず、国際交流基金トロント日本文化センターの田中香織先生がヨーロッパの複文化・複言語主義に触れながら CEFR の特徴について説明した後、Can-do statement のいくつかの例から記述に含まれる要素を確認したうえで、子どもの言葉のちからを考える場合の活動領域のとらえ方や、コミュニケーション能力だけでなく一般的能力がきちんと育つことを見守る重要性について講義していただきました。



次に、キングストン日本語教室の村上佳代先生が、クラスが抱えるチャレンジに向き合うために、お母さんを中心とした授業を担当する先生たちが第二言語習得理論の本を読んで自分が受けて来た国語教育の思い込みから抜け出し、国際交流基金のオンラインの教師研修に積極的に参加して授業を組み立てるヒントを得ていることを報告してくださいました。また、キングストン日本語教室の立ち上げから運営まで携わっているクイーンズ大学の青木恵子先生が、子どもたちの授業の前の目標設定と授業後の振り返りに使っているという Can Do のチェックリストを紹介してくださいました。

最後に、ドイツの<チーム・もっとつなぐ>が作成した「子どもたちの日本語接触領域と能力」を参照しながら、子どもが経験しそうな言語場面を想定した Can-do statement の例を見て、どの活動領域の何の能力にかかわっているのかについて考える作業を行いました。

参加者からは、「日本人・カナダ人・ハーフなどとられず、子どもも自分も1人の個人として社会の中で成長し続けられるという気持ちを持っていようと思った」「保護者から先生になったという話を聞いて今後の継承語学校における教師研修の道筋を感じた」「Can-do statement を学習者と共有する、主体性を育てるという部分が大切だと思った」などの感想が寄せられました。複文化・複言語の環境で育つ子どもに直接かかわる教師や保護者が子どもたちの学びや力を複眼的にとらえ、実際の教授活動や自己の教育力の向上につながる研修になったのなら嬉しく思います。



## —学校紹介—

今回の「学校紹介」は、来年度年次大会が開かれるブリティッシュコロンビア州よりバーナビー日本語学校、そしてカモンカレッジをご紹介します。— 編集部

### BC 州 バーナビー日本語学校

校長 井口翔子

毎週水曜日、にぎやかな子ども達の声が教室から響いてきます。バンクーバーの東隣に位置し、山や湖に囲まれた自然豊かなバーナビー市の住宅街のなか、バーナビー日本語学校の子供達は元気に日本語学習に励んでいます。現地校の放課後に地域の子供達が集まってくるバーナビー日本語学校は、1983年に発足し、バンクーバー都市圏の日本人移住者団体「グレーター・バンクーバー移住者の会」の下での活動を経て、1997年に非営利団体として独立して現在に至ります。BC州の継承語教育の学校として British Columbia Heritage Language Association に属していることから、市の教育委員会を通して現地の公立小学校の教室を借りて授業を行っており、地域に根ざした日本語学校として活動しています。

現在、60家族80名あまりの子ども達が、家庭に日本語環境がある子ども対象の「普通科」と、家庭に日本語環境がない子ども対象の「基礎科」の2コースに分かれて日本語学習に取り組んでいます。今年度、「普通科」では「幼稚科」2クラス、「小学科」6クラス、「中高等科」1クラスの9クラスで継承語として日本語を学び、「基礎科」では5クラスで外国語として日本語を学んでいます。



バーナビー日本語学校の大きな特長のひとつは、長年、保護者を中心に運営を進めてきた点にあり、現在も保護者と教師が互いに協力して学校運営を担っています。なかでも毎年1月に開催される「お正月フェスティバル」は、保護者が子ども達のために企画・準備する学校の大イベントです。日本文化のパフォーマンス鑑賞に始まり、子ども達はグループに分かれてそれぞれ「おもちの部屋」「かるたの部屋」「絵馬の部屋」「おもちゃの部屋」を巡り、お正月にちなんだ様々な文化活動を体験します。文化体験を通じて、「よろしくお願ひします」、「ありがとうございました」、「きなことしょうゆ、ください」と、生きた日本語を使う大切な学びの場にもなっています。

子ども達の学習意欲を目にするのは嬉しい限りで、BC州を中心としたJALTA日本語教育振興会主催の「お話発表会」には毎年多くの出場希望があり、また、今年は「JICA日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）」に学校から初めての参加者を送り出しました。日本語に対する肯定的な気持ちや自分自身の日本語に対する自信を育てながら、これからもますます活発に子どもの日本語の伸長を支える学校でありたいと願っています。

## BC州カモソンカレッジ

林亜紀子

カモソン大学はブリティッシュコロンビア州、バンクーバー島にあるビクトリア市に所在します。ビクトリアは小さいながらも州都であり、一年を通して温暖な気候にめぐまれる「ガーデンシティー」です。夏になると豪華客船が毎日のように停泊し、英国調のダウントウンは観光客で賑わいます。そして、穏やかで美しいビクトリアはリタイヤ後の余生を送る街としても人気です。そんな魅力的なビクトリアにあるカモソン大学は1971年に設立され、現在約一万九千人の学生が通う、ブリティッシュコロンビア州では最大規模のPublic Collegeとして知られています。ビクトリア大学もご近所で、なぜビクトリアが「学生と老人の町」と呼ばれるのか納得していただけるのではないのでしょうか。

当カレッジでは、日本語はSchool of Arts & Scienceの傘下でHumanities(人文科学)に分類されており、1987年以降、様々な学生が選択科目の一つとして履修しています。わざわざ選択科目として日本語を選ぶぐらいですから学生はやる気満々で、25歳くらいまでの、カナダ人学生および留学生が主です。アニメに多大な影響を受けている学生ももちろん多く、中には日本人の奥様に強いられた…という成人の学習者も時折見受けられます。レベルは100, 101, 200, 201の四段階で、『げんきI』と『げんきII』の教科書を使用しています。秋学期と冬学期、合わせて250名ほどが日本語を学んでおり、近年5月6月に短期集中講座も設けるようになりましたが、専任一人と非常勤一人でクラスを回しているため、残念ながら201以上のレベルは提供できていない状態です。日本語のクラス外では、日本語学習者と日本人留学生の交流の場であるJCC(Japanese Conversation Club)を設けており、言語交換のほか、お互いの文化を学ぶ事が出来るイベントなどが学生主体で行われています(学生主体=先生に監視されたくないというのが本音です)。

日本語を履修する学生数はありがたいことに増加傾向にあります。その背後にはやはり日本のポップカルチャーパワーが存在するようです。将来日本で働くことを希望する学生も多く見受けられ、今後も日本語、日本文化に興味を抱く学生が増えてくれればと願うばかりです。

CAJLE2019「研究発表募集」は来年度メールにて会員の皆さまにご案内いたします。

CAJLE2019 "Call For Proposals" will be available next year.

## 国際交流基金コーナー

### 「着任のご挨拶」

国際交流基金トロント日本文化センター 日本語講師 善積祐希子

本年 9 月より、日本語講座常勤講師として国際交流基金トロント日本語文化センターに着任いたしました善積祐希子と申します。カナダ生活は長く、オタワで学生時代を過ごし、その後オンタリオ州やアルバータ州の大学で日本語や言語学を教えてきました。様々な学習動機や言語的背景を持つ学習者、また異なる学習環境にいる学習者に出会う機会が多く、日本語教師としても学ぶことが多い日々でした。それらの経験を活かしながら、当センターの一員として、カナダにおける日本語教育の推進の一助となれるよう、努力して参りたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

### —教材紹介—

**B2(上級)レベルの教材『JFS B2 教材』が無料公開されました！**

この度、「JF 日本語教育スタンダード (JFS)」の B2 レベル (上級) の教材が『みんなの教材サイト』にて無料公開されました。このレベルでは、自分の専門分野に関して抽象的で複雑な内容でも理解し、母語話者と流暢にやりとりをし、そして、幅広い話題において自分の考えや視点を伝えることができることを目指します。

2018 年 9 月現在、公開された『JFS B2 教材』の 4 タイトルとそのトピックは以下の通りです。

	タイトル	トピック	ねらい
1	日本語で楽しもう！	現代アート	幅広い話題に対応できる/多角的な視点で考える
2	日本語で会議！？	スピーチコンテストの審査会議	議論に積極的に参加する
3	どうやって伝えよう？	ビジネスメール	相手を配慮してことばをつかう
4	「場にあった文章」に挑戦！	依頼原稿としての書評の執筆	場にあったスタイルで伝える

『みんなの教材サイト』では、教材 (PDF)、動画/音声とそのスクリプト、教師用資料 (PDF)、そしてタスク解答例 (PDF) が提供されており、動画以外は全てダウンロードが可能です。ぜひ一度、教材をご覧ください。学習者のニーズに合わせてトピックを選んだり、学習デザインを参考にしながらアレンジしたりすることもできますので、授業で役立てていただければと思います。

『JFS B2 教材』：

<https://minnanokyozei.jp/kyozei/classroom/jfsclassroom/home/ja/render.do>

※教材を見るためには、「みんなの教材サイト」にログインする必要があります。

# 日本語教育グローバルネットワークプロジェクト中間報告

## 日本語使用者の言語と経験の多様性に対する理解促進のためのリソース開発

米本和弘(東京医科歯科大学)・柴田智子(プリンストン大学)・川口真代(トロント大学)

津田麻美(コロンビア大学)・林寿子(サイモンフレーザー大学)

色々な言語や文化にルーツを持っている人、日本語を学んでいる人、日本で働く人々、日本に興味のある人たちなど、「日本語＝日本人」ではなく、私たちの周りには様々な「日本語話者」がいます。しかし、そのような多様な日本語使用者は社会において、どの程度意識され、またどのように認識されているのでしょうか。本プロジェクトでは、多様な日本語使用者の「声」を集め、日本語にまつわる様々な考え方や経験について理解を深めることを目的としています。

多様性と調和が謳われている2020年の東京オリンピックは言うまでもなく、言語的・文化的に多様な人々がともに暮らす日本社会において、日本語や日本語話者に対する理解の育成・促進は、全ての人にとってよりよい社会の構築に資することにつながると考えています。

### 日本語教育グローバルネットワークプロジェクトとは？

日本語教育グローバルネットワーク (GN) には、日本語教育の研究・教育の交流と促進を目的に、世界12の国・地域の学協会が参加しています。GNプロジェクトは、加盟団体のうち2団体以上が参画するプロジェクトで、日本語教育グローバルネットワークによる承認を受け、遂行されています。

CAJLEは2015年まで「日本語教育アーティキュレーション・プロジェクト (J-GAP)」に参加し、2016年より「日本社会におけるトランスランゲージングの促進」プロジェクトをヨーロッパ日本語教師会とともに計画、実施しています。

### プロジェクトの目的

本プロジェクトの目的は日本語によるコミュニケーションにおいて、これまで当たり前捉えられてきた母語話者を中心とした一元的な言語観に疑問を投げかけ、日本語や日本語による言語活動の多様性に対する柔軟な理解を育成・促進することにあります。多様な日本語使用者には様々な地域、文化圏で学んだ日本語学習者も含まれます。これらの日本語使用者にとって、日本語は多様な言語活動の一環であり、彼らが総合的に持っている「言語」自体でもあります (García, 2009)。

こうした言語や言語活動について理解を深めるためには、単に多言語化を意識することにとどまらず、日本語によるコミュニケーションを社会一般においてより講義に認識することにつなげていくことが必要です。また、こうした社会における理解のための発信に日本語教育関係者が積極的に関わっていくことが必要であると考えて



普段の生活の中で私たちは「日本語を話す人」が多様であることを忘れずに認識しているでしょうか。「日本語＝日本人」ではなく、様々な言語や文化にルーツを持っている人、日本語を学んでいる人、日本で働く人々、日本に興味のある人たちなど、あなたの周りにも様々な人がいると思います。このウェブサイトでは日本語を外国語として話す人と母語として話す人、双方の経験を集めています。まずは、彼らの「声」を聞いてみてください。私たちは、そこからどんなことを学ぶことができるでしょうか？





います。

### リソースの作成

本プロジェクトでは、多様な日本語を認める言語観を育成・促進するという目的の下、そのためのリソース、およびその使用例を作成しています。最終的には、これらを用いたワークショップなどの開催も行う予定です。

多様な日本語話者に対するインタビュー目的：多様な言語観や言語使用について理解ができるよう可視化すること

対象：国内外の留学生、地域在住の非母語話者（ビジネス、在住者）、非母語話者と接触のある母語話者など

内容：日本語の学習歴・使用環境、日本語使用に対する考えや経験など

インタビューをもとにしたウェブサイトの作成

「セカイの日本語～みんなの声～」(仮)

リソースページ（各話者の再構築されたストーリー+短い動画クリップ数本）

リソースの使用例の作成

プロジェクトの背景やコンセプトの解説（言語教育、応用言語学など）

カナダ内外での授業や研修会などで考えられる用途について意見交換等を含む使用例構築のためのワークショップ開催

### 現在までの進捗状況

2020年中のプロジェクト完了を目指し、現在、リソースの作成を行っています。複数の日本語使用者にインタビューを実施し、そのうち数人のストーリーをウェブサイトに掲載しています。現在は引き続きインタビューを行うとともに、それらのインタビューで得られたストーリーをリソースとして再構築する作業を行っています。

また、これらのリソースをどういった目的で、どのように使用できるのかといった使用例についても掲載を目指して検討を行っています。そして、2019年中には、これらのリソースと使用例を用いてカナダ国内外で本プロジェクトについてのワークショップを実施する予定です。



普段の生活の中で私たちは「日本語を話す人」が多様であることをどれだけ意識しているでしょうか。「日本語＝日本人」ではなく、色々な言語や文化にリーツを持っている人、日本語を学んでいる人、日本で働く人々、日本に興味のある人々など、あなたの周りにも様々な人がいると思います。このウェブサイトでは日本語を外国語として話す人と母語として話す人、双方の経験を集めています。まずは、あなたの「声」を聞いてみてください。私たちは、そこからどんなことを学ぶことができるでしょうか？

All Posts: インタビュー

#### 日本語で困ったのはパーに行った時

バイさん (中国)



僕は北京生まれの北京育ちです。25歳で大学院の修士を終えるまで、ずっと北京に住んでいて、寧でも家族とは北京語が話せませんでした。でも、外国語は英語の小学校1年生から学びました。中国では普通、英語の授業は小学校3年生からなんですけど、私の小学校は1年生からありました。中国では、中学校と高校は一つの学校なんですけど、私は外国語学校に行きました。その地域では「いい学校」だったんです。普通の学校では中国語で発行の英語の教科書を使うんですが、その学校はイギリスから出版されている海外の教科書を使っていたのがよかったんです。授業は教科書のイギリス版をやるだけでした。

北京大学では、外国語は英語ばかりで勉強して、後は専門の勉強だけでした。北京大学の大学院の時、日本語を自分で勉強していたんです。そして、文法などだけでJLPT (Japanese Language Proficiency Test)の2級を取りました。リスニングは日本のパワースタディ番組とか聴いて練習したんで、私の日本語は少し家なんですけど、でも、話すことはできました。

北京大学の大学院の時、2013年ですが、初めて日本に行きました。短い研修旅行でしたが、京都大学で色々な研究室を見て、京都の公的機関、東京では企業にも行きました。15名のグループで行ったんですが、京都で何学を訪問した時、僕一人だけからとてお取引を受けて、すごく楽しかったです。多分「経済学」っていう名前がなかったのかもしれない。京都大学では、日本の神社や寺の経済についてグループ研究をしました。その旅行中、主に英語で日本人の人たちと話しましたが、日本人の学生とは頑張って日本語も使ってみました。でも、ほとんど分かりませんでした。

修士課程はアメリカの大学に進みました。アメリカの大学に留学して、日本語が必要だったんですが、L1が2級があるし、ブレスメントテストの結果は上級だったんです。とは言うっても、話す練習はしてなかったんで、日本語プログラムの先生と相談して、日本語1年生、つまり一番下のレベルから勉強を始めることにしました。始めは簡単だったから、単語を日本語で読み練習（前は漢字で意味が分かったが読み方を知らなかった）と話す練習に時間を費やしました。

2013年に京都大学でグループ研究をした時、図書館で本を探したんですが、本の場所が分かりませんでした。でも、日本人の司書には尋ねて聞けなかった。図書館にはその時、夏休みだったせいで他に外国人もいなかった。だから、結局、ネットで自分で探しました。



2013年に京都大学でグループ研究をした時、図書館で本を探したんですが、本の場所が分かりませんでした。でも、日本人の司書には尋ねて聞けなかった。図書館にはその時、夏休みだったせいで他に外国人もいなかった。だから、結局、ネットで自分で探しました。

現在、本プロジェクトに興味がある方の参加を歓迎しています。参加にはリソースの作成やワークショップ実施など様々な形が考えられますので、CAJLE ウェブサイト内のプロジェクトのページをご覧ください。興味があるか、メール (cajle.project@gmail.com) でお気軽にご連絡ください。

### 謝辞

本プロジェクトの一部は JSPS 科研費 16K21018 の助成を受けています。



## — CAJLE よりお知らせ —

### 年次総会議事録・会計報告 書記

2018 年度の CAJLE 年次大会はオンタリオ州ヒューロン大学にて 8 月 21・22 日の 2 日間に渡り開催され、年次総会は 21 日に行われました。年次総会議事録と会計報告は CAJLE ウェブサイト会員専用ページ Member's Area にてご覧いただけます。会員専用ページへはウェブサイト右側の「ログイン Sign In」からアクセスください。http://www.cajle.info/

### ジャーナル CAJLE19 号 ジャーナル編集部

ジャーナル CAJLE 19 号が発行になりました。こちらからご覧ください。  
We are pleased to announce that Vol. 19 of the Journal CAJLE is available online.  
<http://www.cajle.info/publications/journal-cajle/>

### 地域研修会支援金について REGIONAL WORKSHOP/MEETING SUPPORT FUND

2014 年 10 月に始まった CAJLE 地域研修会支援金は、カナダ全域の日本語教育活性化につながる活動を支援するための助成金です。これまで BC 州バンクーバー、SK 州レジャイナ、ON 州ロンドン、ON 州オタワ、とさまざまな地域において研修会・情報交換会が実施されてきました。会員自らが企画する地域のニーズに応じた教師研修や教師間のネットワーク作りを支援いたします。詳細は[こちら](#)をご覧ください。皆様からのお申し込みをお待ちしております。(広報担当)

In October 2014, CAJLE introduced the Regional Workshop/Meeting Support Fund, and this has allowed broad-ranged activities that assist with the growth of Japanese language education in Canada. Workshops have been held in various regions such as Vancouver, Regina, London, and Ottawa. This fund will enable members to plan and create their own instructor training, as well as networking meetings that suit regional needs. Please see the [website](#) for more information. We look forward to receiving your application. (Public Relations)

### CASLT からのお知らせ

CAJLE とパートナーシップを結ぶカナダ外国語教師会 CASLT (The Canadian Association of Second Language Teachers/L'Association canadienne des professeurs de langues seconde) では隔年で全国規模の学会を開催していますが、2019 年の学会は Fredericton で開かれます。日本語教育関連の発表も予定されています。どうぞご参加ください。※CAJLE 会員は CASLT 会員登録の際に割引(affiliate individual membership fee)が適用となります。詳細は会員規定をご覧ください。

日程: 2019 年 5 月 2 日(木) ~ 4 日(土)

開催地: NB 州フレデリクトン

お申し込みはこちらから(早期割引は 2019 年 1 月 18 日まで)

➤ [Registration \(English\)](#) ➤ [Inscription \(Français\)](#)

## CAJLE2018 年度上半期活動報告

書記 白川理恵、クラスナイいづみ

### 理事会担当報告及び承認事項

2018年 6月1日	ニュースレター56号発行 2018-20年度理事改選の公示
6月12日	2018年度第1回オンライン理事会開催 CAJLEの仏語表記 ACELJ を承認。
6月13日	理事の伊東氏が国際交流基金メキシコ日本文化センター主催「第2回日本語教育アドボカシーセミナー」にて「日本語教師会が商工会から学ぶこと-カナダ日本語教育振興会の事例より」とのテーマで発表。
7月19日	2018年度第2回臨時オンライン理事会開催 理事改選(2018-20)に伴う新理事候補、継続理事および三役を決定。2017年度決算報告を承認、2018年度予算案を決定・承認。
7月21日	日本語学習を継続させる(Continuing Learning Japanese)第27回「継承語としての日本語教育」 於:国際交流基金トロント日本文化センター/共催:CAJLE、国際交流基金トロント
7月23日	ジャーナル CAJLE19号発行 オンラインにて公開
8月3~4日	イタリアのヴェネツィアにて開催の2018年日本語教育国際研究大会(Venezia ICJLE 2018)及びGN代表者会議に小室リー会長、柴田氏、米本氏が出席
8月17日	日本語学習フェア Japanese Study Fair にブース設置。CAJLE から小室リー氏と善積氏が参加。 於:国際交流基金トロント日本文化センター
8月20日	2018年度第3回理事会開催
8月21~22日	CAJLE2018年次大会開催「多様性と評価-多様化する社会での評価の意義-」 開催地:オンタリオ州ヒューロン大学 後援:Consulate-General of Japan in Toronto; The Japan Foundation; Huron University College; Arts & Humanities, Western University; Prince Takamado Japan Centre for Teaching and Researches; The Canadian Association of Second Language Teachers; Amino North America Corporation; Chocolate Barr's; Fukuoka Foreign Language College; IACE Travel; Japan Communications Inc.; Nippon Express Canada. 基調講演:真嶋潤子先生(大阪大学)「学習者の多様性と日本語教育における「評価」-何のために何をもち「評価」するのか-」、教師研修 I:村上吉文先生(国際交流基金・アルバータ州教育省)「宝箱システム-自律学習におけるデジタルバッジの導入」、教師研修 II:真嶋潤子先生(大阪大学)「日本語教育における CEFR のインパクトとその深化 -初版 2001 から追加版 2017 へ-」、教師研修 III:モリー・スミス先生(カナダ第二言語教師会)「オンタリオ州における CEFR: 自己評価方法を使った教室活動の活性化と学習者の取り組みの強化」 年次総会開催
8月21日	・2018年度公認会計士税理士は Chaplin & Co. 会計事務所に引き続き依頼することが承認された。 ・理事改選に伴い、河井道也氏、小室リー郁子氏、下條光明氏、シャープ昭子氏、松本朋子氏の辞任が発表され、推薦を受けた相津頼子氏(オンタリオ州)、安部さやか氏(アメリカ)、木村美香氏(ブリティッシュコロンビア州)、ベイリー氏江智子氏(ブリティッシュコロンビア州)を加えた計16名の理事が承認された。 ・来年の年次大会の日程と開催地が発表された。2019年8月6日、7日 開催地:ビクトリア大学(ブリティッシュコロンビア州ビクトリア市)

8月23日	2018年第4回臨時理事会開催 2018-2020年度の新役員が決定、承認された。 会長: 青木恵子 副会長: 金梨花、柴田智子(他役員と任期が一年ずれるため2019年まで) 会計: 金梨花(チーフ)、伊東義員、善積祐希子 書記: 白川理恵(チーフ)、クラスナイいづみ
9月18日	CAJLE2018のProceedingsをウェブに掲載
9月19日	2018年度第5回臨時オンライン理事会開催
10月10日	第6回オンライン理事会開催
10月28日	継続BC第3回 JALTA・CAJLE共催 日本語教師情報交換会「レessonプランを考える—各課の導入から目標到達まで」 於:バンクーバー日本語学校

### 編集後記

◆8月のロンドン大会から3ヶ月、外はずで一面の雪景色となりました。どこかで読んだのですが、ある程度の歳を取ると、アンラーニングが大切だということです。私にとっては、年に1度の大会がアンラーニングの機会。この夏は、評価に関しての昔の知識を一掃できました。次は、ビクトリアでの「表現リテラシー」を通してのコミュニケーション。楽しみです。(紅@倫敦)

◆時々ふと、大学の授業を終えた昔の学生を思い出すことがあります。日本語学習をやめてしまった修了生がいる中で、今でも日本や日本語に繋がろうと努力している学生に久々に会うと、とても嬉しい気持ちになります。特集記事では、今後も教師の励みになるような、学習者の追跡記事を載せていけたらいいと思っています。(123@薩斯卡通)

◆今回掲載されたカナダ弁論大会の受賞者の素晴らしい記事を読み、新しい言語習得が単なる知識やツールではなく生き方そのものに影響を及ぼすことを改めて感じました。ぜひ見習ってこれを2019年新年の抱負にし、頑張りたいと思います。(猫婦人@北晚香波)

CAJLE ニュースレター編集部ではコメントや日本語教育に関するご意見など皆様からの投稿を歓迎します。お気軽に編集部 [CAJLE.PR@gmail.com](mailto:CAJLE.PR@gmail.com) までメールをお寄せ下さい。

CAJLE newsletter editorial board welcomes comments and opinions that address issues related to Japanese language education. Please email us at [CAJLE.PR@gmail.com](mailto:CAJLE.PR@gmail.com)

カナダ日本語教育振興会  
Canadian Association for Japanese Language Education  
P. O. Box 75133  
20 Bloor St. East Toronto, Ontario M4W 3T3 Canada  
Web: <http://www.cajle.info/>

## 会員規定 - Membership

カナダ日本語教育振興会は、カナダにおける日本語教育の発展と向上を目指す非営利組織です。日本語教育に関心のある方ならどなたでも会員として登録することができます。

CAJLE is a non-profit organization which actively promotes Japanese language education in Canada. We welcome everyone who is interested in Japanese language education.

### 会員特典

- ・カナダの日本語教育情報満載のニュースレター(年2回発行)
- ・日本語教育関係の各種ご案内
- ・年次大会、勉強会、その他の催しの参加費割引
- ・CAJLE 年次大会での研究発表資格
- ・The Canadian Association of Second Language Teachers (CASLT) 会員登録の割引適用: 年会費 \$15 (通常\$45)

### CAJLE membership entitles you to:

CAJLE membership entitles you to:

- Receive the CAJLE Newsletter full of information about Japanese Language Education in Canada (two issues annually)
- Receive various announcements related to Japanese education via email.
- Attend the CAJLE annual conference, workshops and other related events at a reduced rate.
- Present research at the CAJLE annual conference
- Special rate for The Canadian Association of Second Language Teachers (CASLT) membership. (Affiliate Individual Membership is \$15, instead of Regular Individual Membership \$45)

### 会費年度

毎年1月1日から12月31日まで。

### Term of Membership:

The term of membership runs from January 1 of each year through December 31.

### 会員の種類

一般会員(1年)	\$ 45 CAD
一般会員(3年)	\$ 120 CAD
学生会員(1年)	\$ 30 CAD
組織会員(1年、4名まで*)	\$ 120 CAD

### Membership Categories:

Regular Membership (1 year)	\$ 45 CAD
Regular Membership (3 years)	\$ 120 CAD
Student Membership (1 year)	\$ 30 CAD
Institutional Membership (1 year, Up to 4 members*)	\$ 120 CAD

\*全員が同じ組織に所属していること。4名を超える場合、以降1名追加ごとに\$30お支払いいただきます。

\*All members must belong to the same institution. If there are more than four members desiring membership, each can be added by paying \$30 for each additional person.

CAJLEホームページのメンバーシップページ>About usより、オンラインにてお申し込みいただけます。

小切手もしくは銀行振込によるお支払いをご希望される方は、会員申込書をご記入の上、メールまたは郵送でお送りください。

申込書、お支払い方法についてはホームページをご覧ください。<http://www.jp.cajle.info/>

Please visit our website and open "Membership" page through "About us". Please fill out the online form and complete the payment procedure through paypal. For those who wish to pay by personal check or bank transfer, please fill out the application form (available on [www.cajle.info](http://www.cajle.info)) and mail or email it with the appropriate membership fee.

申込先:

Canadian Association for Japanese Language Education (CAJLE)  
P.O. Box 75133, 20 Bloor St. East  
Toronto, Ontario, M4W 3T3, CANADA

Mail to:

Canadian Association for Japanese Language Education (CAJLE)  
P.O. Box 75133, 20 Bloor St. East  
Toronto, Ontario, M4W 3T3, CANADA

※連絡先の変更

住所およびメールアドレス等の変更があった場合にはこちらまでお知らせください。[cajle.kaikei@gmail.com](mailto:cajle.kaikei@gmail.com)

Please notify us at the following email address if your contact information changes: [cajle.kaikei@gmail.com](mailto:cajle.kaikei@gmail.com)